JAMAHA NEWS
JAPAN & MYANMAR ASPIRATION HOYU ASSOCIATION
2013.6 vol.4
日本ミャンマー豊友会
将来の子供たちが共存共生のできる豊かで平和な世界へ

新しい試みに挑む！

代表　近藤秀二

なぜミャンマーなのか、ということを多くの人からよく聞かれます。答えは単純です。映画「ビルマの竪琴」の強烈なイメージにいざなわれ、40年前に当時ビルマと呼ばれていた国を訪問いたしました。その際に感じたビルマの人たちの優しさに強いインパクトを受け、2006年実に久しぶりに再訪いたしました。30数年経過していても街の様相はほとんど変わっていませんでした。軍政下において一種の鎖国とも呼ぶべき状況が続いていたからでしょう。「わけ合えば余る。奪い合えば足りぬ」という、精神の基盤にある豊かさにひかれ、そして現実的には大変な貨幣価値の違いから、私達のポケットマネーでも支援ができ、喜んでいただけることから毎年友人と訪問するようになりました。従来なるべく軍事政権とかかわらずに日本人とミャンマーの人たちとの草の根交流を目指してまいりました。数年任意団体で行き来をしておりましたが、2009年NPO法人を立ち上げ、昨季は認定法人の認可もいただきました。スタディーツアーを契機にファンも増え、組織形態も徐々に整ってまいりました。活動領域としては従来のように、保育園の建設支援や図書室の設置、紙芝居を通じての日本ミャンマー両国の子供たちの交流、各地の孤児院に一種の職業訓練プログラムの提供、現在具体的には2孤児院でのPCを提供しての教室開設、少数民族の学生たちへの奨学金制度の確立、インレイ湖の浄化、汚濁防止啓蒙活動、歯医者さんのグループによる孤児の一斉検診の支援等々を行ってまいりました。

今年の3月には2人の小学生の参加もあり、文字どうり〈日本とミャンマーの子どもたちの未来のために〉という設立趣意書にあるような地点にたどり着く第一歩のところまで参りました。今年度は国際NGOの資格も取り、現地でも公然と活動できるような組織にすると共に、スモールビジネスのオーナーとともに孤児の子どもたちの就労機会を増やす事ができるような活動も行なってゆくつもりです。

皆様もすでにご存知のように最近のミャンマーは瞠目すべき変化を遂げております。40年の停滞をこの3年でとりかえさんばかりの勢いです。百聞は一見にしかずと申します。11月には第15回のスタディーツアー（16,7日ころから23,4日ころまで）を従来より1日伸ばして〈見どころ〉〈聴きどころ〉満杯にして実施いたします。ご家族連れでご参加ください。詳細なスケジュールは5月下旬に発表させていただきます。

ホームページをご参照ください。

報告事項

■日時 ／ 2013 年 3 月 27 日

■場所／ INLE MAING
THOUK VILLAGE

■活動目的／インレー湖浄化啓蒙活動

■活動内容

① INLE MAING THOUK VILLAGE としては二回目で高等学校内小学部に諏訪市から提供していただいた諏訪湖浄化啓蒙 DVD を上映して浄化活動の意味とゴミ拾い活動の大切さを啓蒙。

②前回と同様インレー湖浄化啓蒙する内容をプリントした T シャツを配布して着用して小学生、先生、村落委員会、インダー族文化協会の方々と一緒にゴミ拾い清掃活動を行った。

■参加者

小学生 95 名 教職員 10 名
村落委員会 8 名
インダー族文化協会 6 名
JAMAHA 関係者 16 名 計 135 名
T シャツ 子供用 95 枚 大人用 20 枚

■成果・反省点及び課題

①今回は、小学部の教室で行われたため窓からの光が遮断できず、画像がぼやけてしまって見づらくなってしまった。

②諏訪市から提供いただいた諏訪湖浄化啓蒙 DVD については大人の方々には評価が高く今回も村落委員会の青年部が「ぜひ、メンバーに見せたいから DATA を欲しいと言われた。やはり大人の方には大いに関心があり上映も大人向けと子供向けを準備に無くては行けないと感じた。

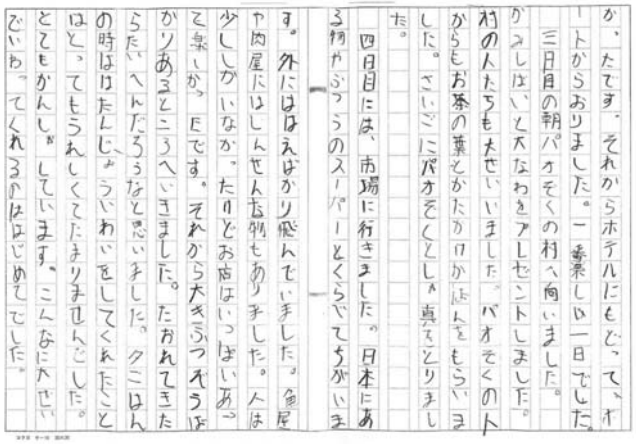
③今回は、T シャツのサイズをワンランク大きいもので支給したが、全員の体型にあったものにならなかった。サイズに関してはもう一度、考慮すべきだと感じた。

④二度目の浄化啓蒙活動及びゴミ拾い清掃活動のため、村長さんも駆けつけて頂きまた、村の青年部の方々も参加していただき啓蒙活動の輪が広がりだしてきた。

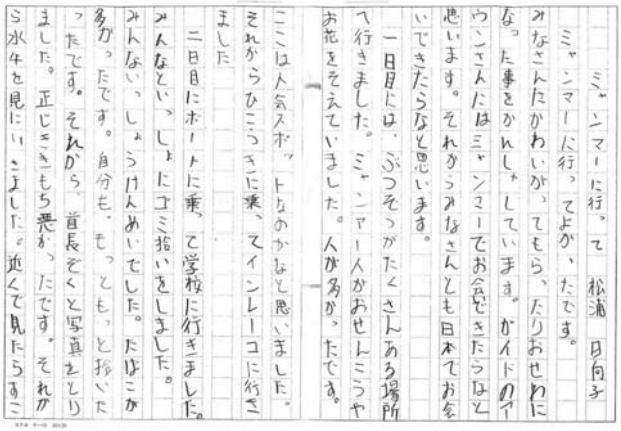
⑤今回は、インダー族文化協会の幹事と青年部の方々が参加していただいた。インダー族文化協会の関心度が高いのは、インレー湖の汚染状況が深刻である事が伺える。胎児汚染が発生しだしているようで次回は水俣病関連の DVD を用意してインダー族文化協会の方々を対象とした啓蒙活動を企画して行きたい。

インレー湖浄化のマーク入りＴシャツを着てこれからゴミ拾いです。

ミャンマースタディーを振り返り



か、たです。それからホテルにもどって、オートがらおりました。一番楽しい一日でした。
三日目の朝パオそくの村へ向いました。かみは、いと太なわをプレゼントしました。村の人たちもたくさんいました。パオそくの人からもお茶の葉とかたかりかぶんをもらいました。さいごにパオそくとしゃ真をとりました。
四日目には、市場に行きました。日本にある物がぶっうのスーパーとくらべてちがいます。外にはえばかり飛んでいました。魚屋や肉屋にはしんせん感もありました。人は少ししかいなかったのとお店はいっぱいあって楽しかったです。それから大きなうつそうばかりあるところへいきました。たおれてきたらたべんだろうなと思いました。クニはんの時はたんじょうびをしてくれたことはとってもうれしくてたまりませんでした。とてもかんしゃしています。こんなにたくさんいわってくれるのはじめてでした。



ミャンマーに行って　松浦　日向子

ミャンマーに行ってよかったです。みなさんたかわいかってもらったりおせわになった事をかんしゃしています。かイドのイウンさんたはミャンマーでお会できたらなと思います。それからみなさんとも日本でお会いできたらなと思います。
一日目には、ぶつそうがたくさんある場所へ行きました。ミャンマー人がおせんこうやお花をそえていました。人が多かったです。ここは人気スポットなのかなと思いました。それからひこうきに乗ってインレーコに行きました。
二日目にボートに乗って学校に行きました。みんなとい、しょにゴミ拾いをしました。みんないっしょうけんめいでした。たばこが多かったです。自分も、もっともっと拾いたったです。それから、首長をくと写真をとりました。正じょきもち悪かったです。それから水牛を見にいきました。近くで見たらすこ

五日目にこどいいんに行きました。こどいんにはずっとさびしいるもいたけど、たのしそうなるもいました。それからおみやげをママと妹とおじいちゃんに買いに行きました。
それからひこうきに乗る前にピザやパスタを食べました。そこで小さいカメしオンを見ました。かわいかったです。ミャンマーりょこうでは本当にみなさんにおせわになりました。こんどは安をくといっしょに行きたいです。

ミャンマーはこんなところ

日本にパゴダがあると知っておられましたか？門司港のメカリ公園の山頂にそびえ立つ世界平和パゴダは、日本とミャンマーの親善と仏教交流、世界平和の使命、および第二次世界大戦時に門司港より出港した戦没者の慰霊を目的として、1958 年国内唯一の本格的ミャンマー式寺院として建立されました。インパール作戦にたずさわった戦友会や遺族の方々で運営されておりましたが、お亡くなりになる方が多くなるにしたがって若干寂しい状態になって行きました。ミャンマーのお坊さんが昨年まで常駐されましたが、お一人がご高齢のためお亡くなりになり、ご一緒におられたお二人の内お一人は東京板橋に移られ、もう一人の方はヤンゴンにお帰りになられました。

しばらく無人のまま閉鎖されておりましたが、このたび世界平和パゴダの永続的存続を図るため、新たに世界平和パゴダ奉賛会が発足致しました。

5 月 15 日から 96 時間の連続読経は、ミャンマー仏教会の二十数人の訪日団のお坊さんによって続けられています。今日（5月19日）はミャンンマーのウ・クマラ・ビ・ワンタ仏教会の会長もおいでになっておられます。今回の”パターン”（発趣論）は再会記念ということもありますが、東日本大震災の犠牲者の供養と今後の日緬友好親善のためということです。再びお二人の常駐のお坊さんも居られるとになりましたから、1万人をこす在日ミャンマー人の方々にとっては心の拠り所となることでしょう。

14th JAMAHA スタディーツアー

2013年3月26日
～
4月1日

平成25年（2013）
4月1日
土屋　惇

大都会ヤンゴン

ヤンゴンは、やはり他の地方と比べて都会だと思いました。日本の都会と比べれば、まだそこまで発達していないけれど車の量や人の数は多かったです。

歩道にはミャンマーの記念品やお土産屋がずらりと並んでいました。僕がミャンマーを観光したときの四か月程前にアメリカのオバマ大統領が訪れたので大統領のTシャツや写真もたくさん売っていました。ぼくはこのことからこの国の民主主義化が進んでいるのだなと感じました。

このような大都会にもミャンマーの文化はしっかりと残されています。ヤンゴンにはたくさんのパゴダがあります。ぼくは今回のツアーでヤンゴンの三つの代表的なパゴダを訪ねました。一つ目はシュエダゴンパゴダ、二つ目はボウダタウンパゴダ、そして三つ目はチャウタッジーパゴダです。一番衝撃をうけたのは一つ目に訪れたシュエダゴンパゴダです。パゴダを初めて見たせいもありますが、その雄大さに感激しました。しかし一番大きく記憶に残っているのは、最後に訪れたチャウタッジーパゴダの寝釈迦仏です。高さ約十八メートル、長さ約六十六メートルと予想をはるかに上回る大きさで圧倒されました。二番目のボウダタウンパゴダは仏陀の遺髪が展示されています。しかしお布施でかくれてしまっていて見ることができませんでした。このパゴダの目がチカチカするほどのまぶしい金の装飾はとても美しかったです。しかし、貧しい生活をしている人が多い国だというのになぜこのような素晴らしい金や宝石の装飾が実現できるのか疑問に思います。

インレーについて

インレー湖にある水上畑や家には色々な工夫が施されていると思います。ボートで小学校に向かう途中に湖の上にトマト畑がありました。よく見るとたくさんの棒がささっています。この棒は、竹出来ていて約五メートルおきに畑にさして流されないようにしているそうです。このような竹の棒はこの畑だけではなく、色々なところにありました。小学校に着く少し前には家が規則正しく並んでいて、各家に細長いボートがありました。前と後ろに一人ずつ乗り、ボートの中には荷物を置いて移動するということも分かりました。この場所は水路が道路に似ていると感じました。

小学生とのゴミ拾い活動では、みんなが一生懸命作業をしていたので良かったです。拾いながらキャンディーやキャラメルなどのお菓子の袋が多いことに気付きました。みんなが気軽にゴミを捨てられるような場所にゴミ箱を設置すればこのようなゴミは減ると思います。小学生の人たちはみんなやる気満々で我先にとゴミ袋を取りにいっていました。

ゴミ拾いが終わった後見に行った水牛の水あびはとても迫力がありました。あんな近くで見られる機会は滅多にないのですごく心に残っています。

インレー湖は下水や農薬などで汚染しきっているそうです。きれいな湖を取りもどすために日本の技術援助が必要なのです。

バガンについて

バガンにはたくさんの寺院やパゴダがあります。その中でこのツアーで訪れた寺院、パゴダはシュエジーゴンパゴダ、アーナンダ寺院、ダマヤンヂー寺院、そしてタビィニュ寺院です。

バスの中でツアーガイドさんが各目的地の大まかな説明をしてくれました。その説明を聞いて興味をもった寺院があります。それは三つ目に訪ねたダマヤンヂー寺院です。興味をもった理由はこの寺院の建設にまつわるエピソードが現実にあったとは思えないような話だったからです。「王家の次男が王位に就くために父と長男を暗殺し、その罪を償うために建てられた」そうです。

他にもそれぞれの寺院にまつわるエピソードを調べてみたいと思います。

トンテの孤児院

ぼくは孤児院に着いて、この国の貧しさを改めて実感しました。バスをおりたときに近くにいた中学生たちの洋服はボロボロでした。このことからこの人たちの服の数はすごく少なく大切に着ていることが分かりました。日本では気に入らない服は直ぐに捨ててしまったり物を大切にしません。この人たちを見習わないといけません。

この孤児院は近くにあるお寺が造ったものです。食事風景の見学で驚いたことがあります。それは孤児院の人たちは自分が前にしている料理に心の底から感謝していて、そのことがぼくにまで伝わってきたことです。日本人は食事中にテレビを見たりしゃべりながら食べるのがあたりまえになってきています。しかし孤児院の子どもたちは一言も話さず、自分が食べている食事に集中していたのです。

この国の孤児院は子どもを入れた人が訪れれば、誰でも受け入れるそうです。この孤児院も以前は八百人程度だったけれど、ここ数年で子どもが急に増えて千人を超えています。

このような貧しい生活を送っている人たちのために日本などの先進国の技術をたくさん伝えていけば喜んでもらえると思います。

ミャンマーについて分かったこと

ぼくがミャンマーのヤンゴンに着いて、一番はじめにフィリピンに似ていると思いました。飛行機の中から見たときは、田んぼがすごく多くて日本の田舎のように感じました。しかし、空港から出たときは木が多かったりむし暑かったりしているところがフィリピンに似ています。調理方法は少し違うけれど食材も似ていました。

しかし、生活環境ではやはりミャンマーの方がフィリピンより劣っています。たとえば、道路整備がその一つです。ミャンマーは多少道路がきれいで安定していますが道幅がせまくて車が二台安定した所からはみ出なければ通れない程です。

ぼくは通訳している人やホテルのスタッフが話しているのを聞いてミャンマー語を勉強したいと思いました。ミャンマー語はやわらかい感じで、奥が深いところが良いです。ガイドさんにミャンマー語のあいさつについて教えてもらいました。そのときにミャンマー語の奥の深さに気付きました。

このツアーで色々学べて楽しめたのはガイドさんのおかげでもあります。ガイドさんの素晴らしい日本語で、目的地の説明をしてくれたり一日の流れを話してくれたりしました。むずかしい日本語で質問しても普通に答えてくれるので驚きました。

ぼくがこのツアーで学んだことは、フィリピンとミャンマーの違いや共通点の他にもミャンマーの文化や寺院、パゴダのことなどがあります。この春休みに今回のツアーに参加できて本当に良かったと思います。また、大人になってもミャンマーに行きたいです。

認定NPO法人 日本ミャンマー豊友会
JAMAHA
Nonprofit Organization
JAPAN & MYANMAR ASPIRATION HOYU ASSOCIATION
〒442-0826 愛知県豊川市牛久保町城下73番地（大木産業株式会内）
Tel. 0533-85-3358　Fax. 0533-85-4986　e-mail・jamahajapan@gmail.com
http://www.hoyukai.com/myanmar/